

平成24年度 岐阜県農薬管理指導士認定試験問題

指示があるまで開けてはいけません

【 注 意 事 項 】

- 1 問題は、12科目で40問あります。
- 2 設問ごとに答えを1つ選んで、その番号を各問題右下の に記入してください。
- 3 に、番号以外を記入した場合は「無効」となります。
- 4 解答は に1つだけ番号を記入してください。2つ以上記入した場合は「無効」となります。
- 5 問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- 6 問題は、3ページから22ページまでです。落丁、印刷ミス等がある場合は挙手ください。
- 7 試験開始後、30分間は退場できません。また、退場した方は、再び入場することはできません。
- 8 退場するときは、問題用紙を閉じ、この面を表にして各自の机の上に置き、忘れ物のないように静かに退場してください。
- 9 下欄に「受講番号」及び「氏名」を記入して開始の合図までお待ちください。

受講番号	<input type="text"/>	氏名	<input type="text"/>
------	----------------------	----	----------------------

**平成 24 年度
岐阜県農薬管理指導士認定試験問題**

* 問題は全部で40問あります。設問ごとに答えを1つ選んで、その番号を各問題右下の

に記入してください。

【植物防疫一般】

問 1 次の文章は、病害虫発生予察情報について記述したものである。(ア)から(ウ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

- ・ 重要な病害虫が大発生することが予想され、すぐにでも防除が必要なときに発表される情報は(ア)である。
- ・ (ア)を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発生することが予想され、早めに防除したほうがよい場合に発表される情報は(イ)である。
- ・ 新しい病害虫の発見や、従来からの病害虫であるが、発生状況が例年と異なるなど特異的な現象が認められるときに発表される情報は(ウ)である。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	特殊報	注意報	警報
2	特殊報	警報	注意報
3	注意報	特殊報	警報
4	警報	注意報	特殊報
5	警報	特殊報	注意報

解答

問 2 次の文章は、植物防疫について記述したものである。(ア)から(ウ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

植物防疫とは、病害虫がまん延して農作物に被害を与えるのを防ぐための総合的、かつ組織的な施策であり、病害虫の発生を科学的に予測する(ア)、農薬使用や耕種的手法を組み合わせた(イ)、海外等からの重要病害虫の侵入を防止するための(ウ)を有機的に組み合わせて実施される。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	病害虫発生予察	病害虫防除	植物検疫
2	病害虫防除	病害虫発生予察	植物検疫
3	病害虫防除	植物検疫	病害虫発生予察
4	植物検疫	病害虫発生予察	病害虫防除
5	病害虫発生予察	植物検疫	病害虫防除

解答

問 3 次の文章は、無人ヘリコプターによる空中散布について記述したものである。
(ア)と(イ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

無人ヘリコプターによる農薬散布は、きめ細やかな作業が可能で作業を省力化できることや、作業能率が高いなどのメリットがあるが、(ア)も求められている。
(ア)として、危害防止措置の徹底(養蚕、ミツバチ、魚類、周辺他作物、周辺施設等への飛散防止)、(イ)、散布区域への立入禁止措置、操作補助員の配置など安全確保の徹底が必要である。

- | (ア) | (イ) |
|-------------|-------------|
| 1 安全対策の徹底強化 | 近隣住民等への事前周知 |
| 2 安全対策の徹底強化 | 広い範囲での散布 |
| 3 低コスト散布 | 風のある場合でも散布 |
| 4 低コスト散布 | 広い範囲での散布 |
| 5 安全対策の徹底強化 | 風のある場合でも散布 |

解答

【農薬取締法】

問 4 次の文章は、農薬取締法第1条の抜粋である。(ア)から(ウ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

「この法律は、農薬について登録の制度を設け、販売及び(ア)の規制等を行なうことにより、農薬の(イ)の適正化とその安全かつ適正な(ア)の確保を図り、もって農業生産の安定と国民の(ウ)に資するとともに、国民の生活環境の保全に寄与することを目的とする。」

- | (ア) | (イ) | (ウ) |
|------|-----|-------|
| 1 届出 | 安全性 | 食糧の確保 |
| 2 使用 | 届出 | 健康の保護 |
| 3 届出 | 安全性 | 食糧の確保 |
| 4 登録 | 安全性 | 食糧の確保 |
| 5 使用 | 品質 | 健康の保護 |

解答

問 5 農薬取締法でいう「農薬」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 農薬と同じ有効成分を含む薬剤で、ゴキブリ、蚊など衛生害虫を駆除するための殺虫剤は、農薬に該当する。
- 2 農作物等の生理機能の増進又は抑制に用いられる成長促進剤や発芽抑制剤は、農薬に該当しない。
- 3 農作物の防除のために利用される天敵は、農薬とみなされる。
- 4 非農耕地用と称される除草剤を駐車場や線路など農作物等が存在しない場所で使用すると農薬である。
- 5 農薬をしみ込ませて農作物に使用する防虫袋は、政令で農薬と指定されている。

解答

問 6 農薬販売者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 農薬販売者とは農薬を販売する者をいい、この販売の概念に「販売以外の授与」が含まれる。
- 2 農薬販売者は、新たに販売を開始した場合にあってはその開始後 2 週間以内に販売所を管轄する都道府県知事に氏名等を届け出なければならない。
- 3 農薬販売者は、農薬ではない除草剤を販売する場合、店頭の見えやすい場所に「この除草剤は農薬として使用できない」旨の表示をしなくてよい。
- 4 農薬販売者は、特定農薬と登録番号など法令で定められた表示が容器又は包装のない農薬を販売できる。
- 5 農薬販売者は、農薬取締法に基づいて備え付けた帳簿を少なくとも 5 年間保存しなければならない。

解答

問 7 農薬使用者が農薬を使用したときに帳簿に記載するよう努めなければならないとされている事項がある。次のうち、誤っているものはどれか。

- 1 農薬を使用した年月日
- 2 使用した農薬の購入先
- 3 農薬を使用した場所
- 4 使用者した農薬の種類又は名称
- 5 使用した農薬の単位面積当たりの使用量又は希釈倍数

解答

問 8 特定農薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 特定農薬は、その原材料に照らし農作物等、人畜及び水産動植物に害を及ぼすおそれがないことが明らかなものである。
- 2 特定農薬は、現在、木酢酢、重曹及び使用場所と同一の都道府県内で採取された天敵が指定されている。
- 3 特定農薬は、厚生労働大臣が指定する。
- 4 特定農薬を製造するときは、農林水産大臣の登録を受ける必要がある。
- 5 専ら特定農薬を製造し販売する者は、農薬販売の届は不要である。

解答

問 9 農薬の使用に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 農薬のラベル表示の適用作物に「トマト」と記載されていれば、「ミニトマト」にも使用できる。
- 2 農薬の使用回数には、種や苗への使用を含まない。
- 3 農薬の使用回数には、農薬成分ごとの総使用回数が定められていない。
- 4 農薬のラベル表示の適用作物に「こまつな」と記載されてる場合、同じ「非結球あぶらな科葉菜類」である「みずな」には使用できない。
- 5 「土壌に所定量を加え、十分混和した後ビニール等で被覆する」使用方法の土壌処理剤は、土壌に使用するため適用作物は定められていない。

解答

【毒物及び劇物取締法】

問10 次の文章は、毒物及び劇物取締法第12条の抜粋である。(ア)から(エ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

第12条 毒物劇物営業者及び特定毒物研究者は、毒物又は劇物の容器及び被包に、「医薬用外」の文字及び毒物については(ア)をもって(イ)の文字、劇物については(ウ)をもって(エ)の文字を表示しなければならない。

- | | ア | イ | ウ | エ |
|---|-------|------|-------|------|
| 1 | 赤地に白色 | 「毒物」 | 白地に赤色 | 「劇物」 |
| 2 | 黒地に白色 | 「毒物」 | 白地に黒色 | 「劇物」 |
| 3 | 白地に黒色 | 「毒」 | 黒地に白色 | 「劇」 |
| 4 | 白地に赤色 | 「毒物」 | 赤地に白色 | 「劇物」 |
| 5 | 赤地に白色 | 「毒」 | 白地に赤色 | 「劇」 |

解答

問11 毒物及び劇物取締法第15条に規定されている「毒物又は劇物の交付の制限等」に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ア 毒物劇物営業者は、覚せい剤の中毒者に毒物又は劇物を交付してはならない。

イ 毒物劇物営業者は、引火性、発火性又は爆発性のある毒物又は劇物であって政令で定める物を交付する際には、交付を受ける者の氏名及び住所を確認しなければならない。

ウ 毒物劇物営業者は、19歳の未成年の者に毒物又は劇物を交付してはならない。

エ 毒物劇物営業者は、毒物及び劇物取締法に違反して罰金刑に処せられた者に毒物又は劇物を交付してはならない。

1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (ア、エ) 4 (イ、ウ) 5 (イ、エ)

解答

問12 ダイアジノン(2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6-ジエチルチオホスフェイト)に関する次の記述のうち、正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

ア 常温・常圧では、無色無臭の透明な液体で、水によく溶ける。

イ 中毒症状が発現した場合には、至急医師によるPAM製剤又は硫酸アトロピン製剤を用いた適切な解毒手当てを受ける。

ウ 有機リン系の化合物で殺虫剤として用いられる。

	ア	イ	ウ
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

解答

【食品衛生法】

問13 食品衛生法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 食品等事業者とは、食品の加工や販売を行う者を指し、食品の貯蔵や運搬を行う者は含まれない。
- 2 販売食品等に関する記録は、他に提供してはならない。
- 3 輸入食品の検査は検疫所で実施するため、都道府県では検査していない。
- 4 食品衛生法は、農産物の栽培方法の基準を定めている。
- 5 食品等事業者は、販売食品等の安全性の確保に努める必要がある。

解答

問14 食品衛生法に定められている食品の規格又は基準に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 食品衛生法では農産物等への農薬の使用時期、使用量について具体的に基準が定められている。
- 2 規格又は基準に合わない食品を輸入し、保存し、販売することはできない。
- 3 ポジティブリスト制度が導入される以前は、残留農薬の基準は定められていなかった。
- 4 残留農薬基準は、農産物と畜水産物を対象としており、加工食品は含まれない。
- 5 食品の残留農薬の基準は、農林水産大臣が定めている。

解答

【農薬一般】

問15 農薬取締法第1条の2による農薬の定義に照らし、次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 支柱や育苗箱、鉢などの消毒に使用する農業用資材消毒剤は、農薬に該当しない。
- 2 肥料と農薬が混合された農薬入り肥料は、農薬取締法では農薬として扱われない。
- 3 農作物を加害する野そ（ねずみ）を駆除する殺そ剤は、農薬に該当しない。
- 4 性フェロモンを利用して対象害虫の交尾・生殖行動を阻害する交信かく乱剤は、殺虫する効果がないので農薬には該当しない。
- 5 天敵昆虫や病菌を抑える微生物は、防除目的で販売していても生物であるため農薬には該当しない。

解答

問16 農薬に求められる特性に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 大量散布すれば、目的とする防除効果が得られること。
- 2 汎用性が高く、あらゆる病虫害によく効くこと。
- 3 残留性が高く、いつまでも効果が続くこと。
- 4 薬剤抵抗性・耐性がつきにくいこと。
- 5 施用（散布等の処理方法）に高度な技術を要すること。

解答

問17 農薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 防除ごとに異なる系統の殺虫剤に替えると、どの殺虫剤にも強い虫が生き残り、殺虫剤に抵抗性のある害虫が増えてしまうので、殺虫剤は同じものを繰り返し使った方がよい。
- 2 農薬の剤型のうち、水和剤は水溶性の粉剤や粒剤など固定の製剤であり、乳剤は農薬原体に乳脂肪分を混和した液体の製剤である。
- 3 農薬の作用機構は、殺虫剤は神経機能阻害、殺菌剤は代謝阻害、除草剤は光合成阻害やアミノ酸合成阻害によるものが多い。
- 4 害虫の幼虫の脱皮異常を起こさせる昆虫成長制御剤（IGR）は、農薬には分類されない。
- 5 農薬を使用する場合、商品名が異なれば有効成分も全て異なるので、種類名に注意する必要はない。

解答

問18 我が国の農薬生産と流通の説明に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 農薬生産金額は、平成8年に約4500億円となり、その後も増加している。
- 2 農薬の用途別生産金額は、現在は、除草剤の生産金額が最も多く、次いで殺菌剤、殺虫剤の順である。
- 3 農薬の製剤別生産量の推移を見ると、粉剤は昭和44年には全生産量の58%を占めたが、その後激減し、現在は13.6%となっている。
- 4 毒性別に生産金額の比率をみると、毒物及び劇物に該当する農薬は、危害防止などの観点から減少し、現在は毒物及び劇物に該当しない農薬と同程度の割合となっている。
- 5 農薬の流通は、系統ルートと商系ルートの2つに大別される。農家など最終使用者に渡る段階での系統対商系の比率は37：63となっている。

解答

【農薬の安全性評価】

問19 次の文章は、農薬散布時のリスクについて述べたものである。(ア)から(ウ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

農薬を作物に散布する時は、まず農薬に触れたり吸入したりすることによる散布者へのリスク(ア)が考えられる。また散布対象の作物へのリスク(イ)のほか、近接する他の作物に(ウ)した場合のリスクも考えられる。広域に散布が行われる場合、散布方法によっては、ほ場外に散布液が(ウ)するリスクも考えられる。特に住宅地や公共施設等の近隣での(ウ)は、住民や器物に対して問題を生ずる原因となる。

	(ア)	(イ)	(ウ)
1	残留	残効	浸透
2	接触	経口毒性	飛沫
3	慢性毒性	残効	残留
4	健康影響	薬害	飛散
5	健康影響	分解	流出

解答

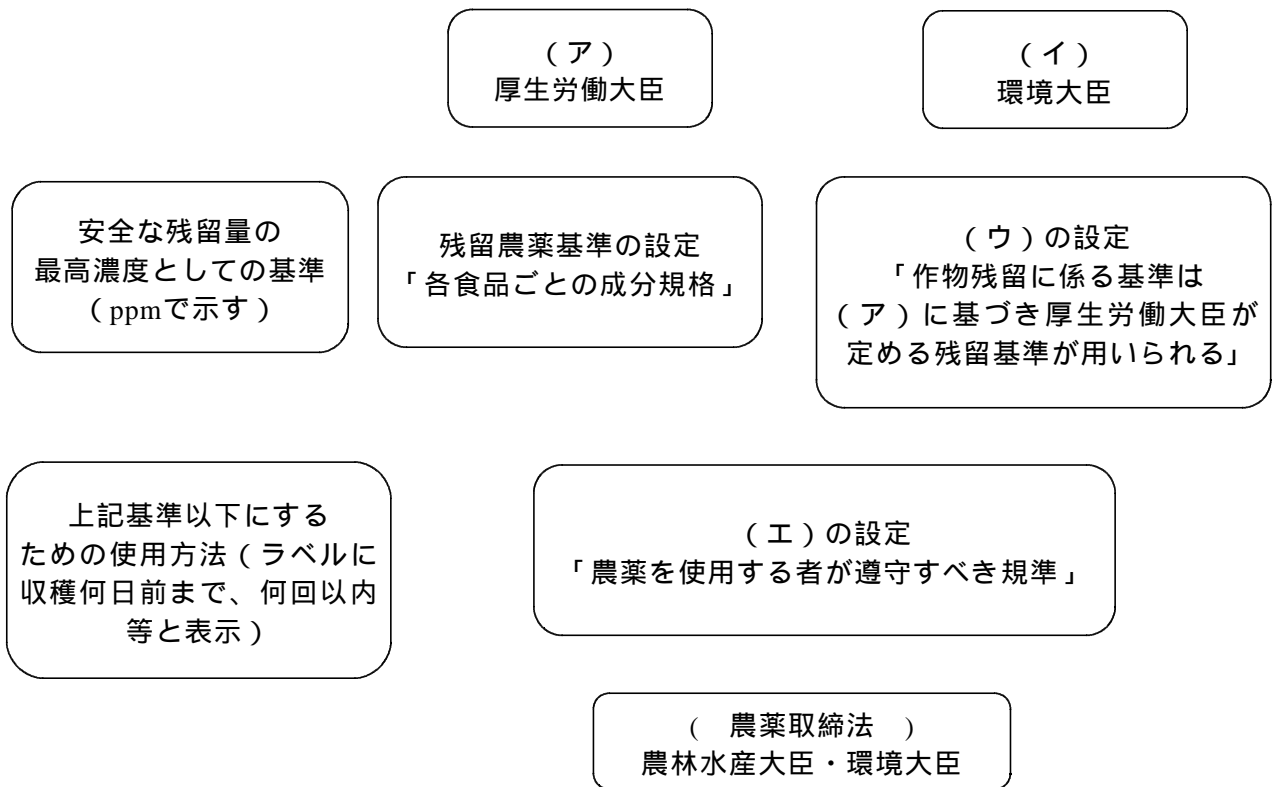
問20 次の記述のうち、()に当てはまる正しい単位はどれか。

農薬残留の基準等で使用される単位ppmとは百万分の一という意味で、作物中の残留農薬では、1ppmは作物1kg中に含まれる1()の農薬に相当する。

- 1 kg
- 2 g
- 3 mg
- 4 μ g
- 5 ng

解答

問21 農薬の残留に関する法律や基準についての関係を表した次の図のうち、(ア)から(エ)に入る語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。



- | | (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) |
|---|-------|-------|----------|---------|
| 1 | 農薬取締法 | 食品衛生法 | 農薬登録保留基準 | 農薬の使用基準 |
| 2 | 農薬取締法 | 食品衛生法 | 農薬の使用基準 | 残留農薬基準 |
| 3 | 食品衛生法 | 農薬取締法 | 農薬登録保留基準 | 農薬の使用基準 |
| 4 | 食品衛生法 | 農薬取締法 | 農薬の使用基準 | 残留農薬基準 |
| 5 | 薬事法 | 農薬取締法 | 残留農薬基準 | 残留農薬基準 |

解答

問22 農薬の安全性評価に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 農薬は、急性毒性が強いと慢性毒性も強い傾向がある。
- 2 農薬のもつ様々なリスクを適切に管理するために、ラベルに使用上の注意事項が記載され、使用者に適切な使用を義務づけている。
- 3 土壌中に農薬が蓄積し悪影響を及ぼすことがないように、現在登録されている農薬は、半減期が1年を越えないように設定している。
- 4 長期毒性試験は主に農薬使用者への影響を、急性毒性試験は農薬が使用された農作物を食べる人（消費者等）に与える影響を調べるために行われる。
- 5 収穫物に対する残留農薬の危険性に対しては、実験動物を用いた半数致死量試験の値に基づき、ヒトに対する摂取許容量を決定する。

解答

【害虫防除】

問23 次の記述のうち、（ア）に入る語句として、正しいものはどれか。

「昆虫が、自分の体外へ発散して、同種他個体に生理的あるいは行動上の刺激を誘発する化学物質を（ア）と呼び、一部の害虫では化学的に合成した（ア）を利用し、害虫を誘引したり交尾を阻害したりして防除に利用する方法が実用化されている。

- 1 フェロモン
- 2 ホルモン
- 3 ファイトアレキシン
- 4 カイロモン
- 5 アロモン

解答

問24 殺虫剤抵抗性害虫に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 殺虫剤抵抗性害虫の例として、コナガ、アブラムシ類、ハダニ類等があげられる。
- 2 害虫が、ある殺虫剤に対し抵抗性を持ったときに、同時に他の殺虫剤に対する抵抗性を有することがある。
- 3 系統の違う作用性の異なる薬剤の交代使用（ローテーション）を行うことは、抵抗性発達を抑える効果がある。
- 4 殺虫剤抵抗性害虫の対策として、同種の薬剤を連続散布することは最も有効な手段の一つである。
- 5 抵抗性発達には、害虫集団に含まれる抵抗性遺伝子を持つ個体の割合が大きく関与する。

解答

問25 害虫と関連する作物名および加害様式の次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- | 【害虫】 | 【作物名】 | 【加害様式】 |
|--------------|-------|--------------------|
| 1 コナガ | ダイコン | 幼虫が葉を食害する。 |
| 2 ニカメイガ | イネ | 幼虫が茎内に食入する。 |
| 3 ハスモンヨトウ | ダイズ | 幼虫が葉や若い莢（さや）を食害する。 |
| 4 アブラムシ類 | キャベツ | 外部から茎葉部を吸汁する。 |
| 5 チャバネアオカメムシ | カキ | 外部から葉を食害する。 |

解答

【病害防除】

問26 植物の病気に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 植物は、そこに病原体（主因）があれば、必ず病気になる。
- 2 農機具や人の手からは、病原体は感染しない。
- 3 ウイルス、細菌、糸状菌は、いずれも自らの力で宿主植物に侵入する。
- 4 うどんこ病は、糸状菌による病害である。
- 5 ウイルスは、単細胞の2分裂する原核生物である。

解答

問27 病原菌の伝染方法や病気の発生に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ウイルス病は、アブラムシやウンカなどの昆虫によって伝染することがある。
- 2 細菌は、風雨や管理作業等による傷などから植物へ侵入する。
- 3 糸状菌は、孢子による空気伝染、遊走子による水媒伝染、菌糸による土壌伝染などが主な伝染方法である。
- 4 育苗箱や支柱に付着した病原体も、病気の一次伝染源となる。
- 5 湿度は、病害の発生に大きく影響を与えない。

解答

問28 病害防除に関する次の記述として、正しいものはどれか。

- 1 病害防除を行うときは、病気の原因菌の特定（診断）は重要ではない。
- 2 抵抗性品種の利用は、効果的で経済的な防除法である。
- 3 最近の農薬は優れているため、発病が進んでいても十分な効果が得られるものが多い。
- 4 ほ場衛生や発病した植物を引き抜き処分すること（伝染源の除去）は、病気の発生に大きな影響はないので行わなくて良い。
- 5 環境保全型農業とは、化学農薬を最大限に使用し、病虫害の被害を経済的許容水準以下に抑制しようというものである。

解答

【雑草防除】

問29 雑草の特性に関する次の記述のうち、（ ）に入る語句として、正しいものはどれか。

（ ）は種子と茎基部の両方で繁殖して雑草害を発生させる。

- 1 イヌホタルイ
- 2 ノビエ
- 3 コナギ
- 4 クログワイ
- 5 アゼナ

解答

問30 次のイネ科雑草のうち、多年生雑草はどれか。

- 1 オヒシバ
- 2 メヒシバ
- 3 スズメノテッポウ
- 4 エノコログサ
- 5 チガヤ

解答

問31 除草剤に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 除草剤は、雑草の光合成・タンパク質合成などを阻害して枯死させる作用を持つ。
- 2 茎葉処理除草剤は、残効性が長いため、処理時期が限定されず使い勝手が良い。
- 3 土壌の種類によって移動性が左右されることはなく、安定した除草効果が得られる。
- 4 除草剤は連用しても効かない雑草を生むことはなく、安心して使用できる。
- 5 除草剤の選択性とは、水田雑草（または畑雑草）だけを枯らす効果をいう。

解答

【農薬の安全使用】

問32 農薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 自家消費のために農産物を栽培し農薬を使用する場合には、「農薬を使用する者が遵守すべき基準」（農薬使用基準）に従う必要はない。
- 2 農薬の使用により、農作物等に害を及ぼさなければ人畜に危険を及ぼしても、農薬を使用する者は責務上問題ない。
- 3 防除計画は、必要以上に農薬の使用を増やさないために役立つことから、病虫害などの発生の多少にかかわらず計画を修正する必要はない。
- 4 DDT、BHC、パラチオン等の農薬は、省令により登録番号の有無にかかわらず販売が禁止され、それを使用することも罰則の対象となる。
- 5 くん蒸による農薬使用者（自ら栽培する農作物等にくん蒸により農薬を使用する者は除く）のみ、農薬使用計画書を農林水産大臣に提出することが法令で定められている。

解答

問33 農薬のラベル表示に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ナス科やアブラナ科など同じ科に属する農作物であれば農薬の使用基準はすべて同じであるため、同じ科に同じ農薬を使用する場合は使用前にラベルを確認する必要はない。
- 2 農薬の使用量または希釈倍率は目安であるため、病害虫が多発した場合はラベルの表示より高濃度で使用しても問題ない。
- 3 農薬の使用回数は商品ごとに定められているので、有効成分名まで確認する必要はない。
- 4 農薬の容器・包装のラベルには最終有効年月日の表示があるが、最終有効年月日を過ぎたものは品質の保証ができないことから使用しないよう努めなければならない。
- 5 農薬のラベルに記載された内容は変更されないため、使い慣れた農薬を新たに購入した場合、改めてラベルを確認する必要はない。

解答

問34 農薬の安全使用に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 使用済み農薬の空容器は容器内に農薬が残らないようきれいに洗浄すれば、野焼き（野外での焼却）により処理しても問題ない。
- 2 農薬の空容器の処分に当たっては、容器に農薬が残らないよう農作物に影響のない排水路等で容器を洗浄をする。
- 3 農薬を使い終わったプラボトルに4分の1量の水を入れ、よく振った後に空ける作業を3回以上繰り返し行えば、容器内の農薬はほとんど残らずきれいになる。
- 4 ゴーグル型の保護メガネを着用して作業すると、中が曇って作業に支障をきたすため使用しないようにする。
- 5 農薬散布に適した市販のマスクは1種類しかないため、使用する農薬の種類に関係なく、農薬用保護マスク研究会のマークがついたマスクを購入すればよい。

解答

問35 農薬使用上の注意点に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 農薬は人体に対する安全性が確認されているため、体調が優れないときに接触しても中毒になることはない。
- 2 薄い散布液などの状態で放置すると農薬が分解して効果等に影響する場合も考えられるため、調整後の散布液はそのつど使い切るのが原則である。
- 3 農薬散布による体への付着量は、前進しながら散布するよりも、後退しながら散布したほうが付着量が多くなるため、前進しながら散布を行うとよい。
- 4 散布者の被ばく量を少なくするには、液剤散布では噴霧粒径の小さいノズルを使用することが有効である。
- 5 毒物・劇物に該当する農薬でなければ、他の容器などに移し換えて保管しても危害防止上問題ない。

解答

問36 農薬散布時の周辺住民や環境への配慮に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 住宅地やその周辺等で農薬を使用する場合は、速やかに防除作業が終了できる粉剤等の飛散しやすい農薬を選定する。
- 2 街路樹の防除など大規模な農薬散布を行う場合は、ポスター・有線放送・広報車などを利用し、幅広く広報活動することが重要である。
- 3 土壌くん蒸剤等の揮発しやすい農薬は、土壌中に残留しないよう処理後のシート被覆は行わず、速やかに揮発させる。
- 4 すべての農薬は登録に際して、家畜、ミツバチや蚕などの有用昆虫、水産動植物等への影響についてその安全性が確保されているため、それらに対して配慮する必要はない。
- 5 農薬は安全性が確認されているため、その種類や使用量、対象作物を間違えたり、異常な気象条件下、通常と異なる栽培条件下等で使用しても、農作物に薬害が発生することはない。

解答

問37 農薬散布時の飛散防止対策に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 飛散には散布時の気温が最も強く関与し、気温が低いほど飛散量は多くなり、かつ到達範囲がひろくなる。
- 2 空中散布のように対象物から距離がある場合は、平面的な作物に対し近接した位置から散布する場合に比べて飛散は発生しにくくなる。
- 3 散布圧力を高めて使用すると、散布粒子が粗くなり飛散しにくくなるため、飛散防止対策として有効である。
- 4 飛散の発生量は散布量にほぼ比例して多くなるため、作物の大きさや病害虫の特性に合わせた適量を散布するよう努める。
- 5 果樹園で使用するスピードスプレーヤーは飛散が小さいため、風量を可能な限り大きくして散布しても、園地外へ飛散する危険性は少ない。

解答

【農薬管理指導士の任務】

問38 農薬管理指導士に関する次の記述のうち、(ア)と(イ)に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

岐阜県においては、農薬の取り扱い、使用に関する安全性の確保を図る観点から、(ア)、防除業者、ゴルフ場における農薬使用者、ならびに地域の農薬適正使用に関して指導、助言を行おうとする者などの資質向上対策の一環として、農薬管理指導士を認定している。

また、(イ)ごとに更新研修を受講することが必要である。

	(ア)	(イ)
1	農薬販売業者	3年
2	農薬販売業者	2年
3	造園業者	3年
4	農薬製造業者	3年
5	農薬製造業者	2年

解答

問39 次のうち、農薬管理指導士の指導任務として、誤っているものはどれか。

- 1 農薬使用基準の遵守
- 2 新しい農薬や防除方法に関する調査研究
- 3 農薬使用に伴う人畜に対する危被害防止及び環境の保全
- 4 農薬の適正な保管及び管理
- 5 県が定めた病虫害・雑草防除指針、農薬安全使用に係る指針等の遵守

解答

【最近の動向】

問40 次の文章は、農業生産工程管理（GAP）の定義について述べたものである。
（ア）から（ウ）に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。

農業生産工程管理（GAP）とは、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる（ア）に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、（イ）、点検及び評価を行うことによる持続的な（ウ）である。

- | | （ア） | （イ） | （ウ） |
|---|------|-----|------|
| 1 | 防除項目 | 確認 | 農業活動 |
| 2 | 防除項目 | 記録 | 農業活動 |
| 3 | 点検項目 | 記録 | 改善活動 |
| 4 | 点検項目 | 生産 | 改善活動 |
| 5 | 点検項目 | 確認 | 改善活動 |

解答